

事業所職員向け 2022年度 児童発達支援自己評価表 自己評価表（ルフレいなぎ児童発達支援事業所）

		チェック項目	はい	N/A	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	75%	0%	25%	法令を遵守したスペースを確保している。お子さんの発達段階・特性によってグループ分けや環境設定をしている。	お子さんが安心して主体的に遊べる空間をつくれるように工夫していきます。
	2	職員の配置数は適切であるか	100%	0%	0%	法令で必要とされる配置数に加え、専門職を2名以上配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	100%	0%	0%	床にマットを敷いて安全面への配慮をしている。ロッカーを個別にし、マークで分かりやすくしている。子どもの特性に合わせて、スケジュールや絵カードなどで情報伝達等の支援をしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	87%	0%	13%	衛生面に配慮し、おもちゃや生活空間の洗浄、消毒を毎日行っている。空気清浄機を設定し、感染リスクが下がるようにしている。クラスごとにその都度子どもに合った環境を考えて行っている。	
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	74%	13%	13%	月に1回程度支援会議を実施し職員で話し合う機会を設けている。全職員の勤務時間を17時15分にし、振り返りの時間を確保している。また、日々の振り返りでも話し合いをしている。	業務改善を進めるための話し合いを設定し、目標と振り返りをする事で動きやすい職場環境になるよう改善に努めています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100%	0%	0%	保護者の意向や要望等を確認し、業務や支援の改善を行っている。会議の場で改善案を話し合っている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	57%	29%	14%	毎年2月に評価表の結果をホームページに掲載している。	ホームページへの掲載後は職員や保護者に丁寧にお知らせいたします。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	74%	13%	13%	第三者による外部評価は実施していないが、スーパーバイザーやオンブズマンに来ていただく機会がある。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%	0%	0%	事業所内研修と法人全体研修を行っている。事業所内研修を6回、事例検討を2回実施した。	
適切 な 支 援 の 提 供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	100%	0%	0%	発達項目（対人意識、対物認知、生活習慣、感覚、粗大運動、微細運動）ごとにアセスメントを行った後に児童発達支援計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	62%	25%	13%	フォーマル検査（新版K式発達検査、WISCIV、<S-S法>言語発達遅滞検査）を実施している。独自のアセスメント表を使用している。	アセスメント作成やフォーマル検査報告書作成後に職員間で共有する機会を設けます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	62%	25%	13%	保護者の方に支援の意向を確認した上で「発達支援」を主軸とした支援計画を作成している。	支援計画作成時に職員間で発達課題のすり合わせをし、支援目標を検討するようにします。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100%	0%	0%	支援計画会議を行い、スタッフ間で共有を図っている。支援計画を確認しながら日々支援を行うようにしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	62%	0%	38%	日々の振り返りでチームから上がった意見をもとに担当者が立案している。方法や提示の仕方などは職員間で話し合っている。	その日の利用状況によって提供する活動が異なるため、主に担当者が立案しています。職員間で振り返りを丁寧にし、クラスのねらいや個々のお子さんのニーズを把握して次の活動につなげられるようにしていきます。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%	0%	0%	必要に応じて同じ活動を繰り返すことはあるが、子どもの発達段階に合わせて毎回活動プログラムを立案している。昨年度の活動内容を振り返りながら改善している。	

事業所職員向け 2022年度 児童発達支援自己評価表 自己評価表（ルフレいなぎ児童発達支援事業所）

		チェック項目	はい	N/A	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
適切な支援の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	87%	0%	13%	それぞれの子どもの発達段階に応じた支援を行いつつ、集団での関わり合いも大切にしている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%	0%	0%	朝礼で一日の支援やスケジュールを共有している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	87%	0%	13%	利用児との関わりを終礼で共有している。次の支援に活かせるように記録に残している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	87%	0%	13%	クラス毎に話し合った内容を記録にとるようにしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	100%	0%	0%	支援計画更新時にモニタリング会議を実施している。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	100%	0%	0%	セルフプランが多いため、対象児は2名。対象児のサービス担当者会議には、児童発達支援管理責任者が参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	87%	0%	13%	自立支援協議会子ども部会（年3回）では、稲城市内の放デイ、児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が集まり、稲城市の課題について話し合っている。児童発達管理責任者が保健センターで実施しているキラキラ学級を見学した。保健センターの職員が事業の見学に来られ、支援の共有を行った。	
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか					
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか					
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%	0%	0%	移行前または移行後に幼稚園や保育園との話し合いの機会を設けている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%	0%	0%	移行前または移行後に小学校との話し合いの機会を設けている。就学支援シートの活用をすすめ、学校に引き継いでいる。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	87%	0%	13%	子ども部会では、それぞれの事業所の課題について話し合いをしている。必要に応じて他事業所との連絡を図り、連携をしている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	24%	38%	38%	ほとんどの子どもが保育園や幼稚園と併用して当事業所に通っている。	
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	49%	38%	13%	子ども部会に児童発達支援管理責任者が参加している。	子ども部会で話し合った内容を職員間で共有する機会を設けます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	0%	0%	家庭での利用児の様子を会話の中で聞いたり、状況を確認し、寄り添った会話を心がけている。毎日の連絡帳や送迎の際に保護者と情報交換や共有を行っている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	62%	13%	25%	保護者勉強会等を開催し、家族の支援を行っている。2歳児親子クラスではテーマを決めて関わり方について話す機会を数回設けた。		

事業所職員向け 2022年度 児童発達支援自己評価表 自己評価表（ルフレいなぎ児童発達支援事業所）

		チェック項目	はい	N/A	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%	0%	0%	契約時に説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	75%	25%	0%		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%	0%	0%	送迎時や随時電話、メール等でいつでも保護者の相談・援助を行っている。希望する方や必要時に面談を実施している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	87%	13%	0%	保護者会や土曜イベントの家族参加の機会を提供し、保護者同士の交流や連携を支援している。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%	0%	0%	随時、迅速に対応し、必要な体制を整備するよう努めている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	87%	13%	0%	プライバシーに配慮しつつ、写真やイラストを多用し、活動や支援の様子をお便りで伝えている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	100%	0%	0%	個別ファイルやパソコンは鍵のついた所定の場所にしまっている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	87%	13%	0%	文字、イラスト、写真等で分かりやすく伝える様々な情報伝達に努めている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	37%	25%	38%	地域の自治会に加入している。	地域の自治会に加入したが、コロナ禍に祭りの中止により交流は図れませんでした。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	62%	0%	38%	各マニュアルを会議で周知している。嘔吐時の対応について会議で確認している。緊急時マニュアルを作成し、保護者に配布している。	会議で非常時の発生を想定した訓練を実施します。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%	0%	0%	今年度は避難訓練を月に1回程度実施している。	今後は火災を想定した訓練を実施します。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	62%	38%	0%	登録票に服薬やてんかん発作等のこどもの状況を記入していただき、確認している。	てんかんや熱性けいれんなどによる座薬が必要なお子さんがいる場合には年度初めや利用開始時に職員間で確認します。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	49%	38%	13%	登録票にアレルギーに関するこどもの状況を記入していただき、確認している。現在、食物アレルギーのある子どもはいない。	アレルギーのあるお子さんが利用する場合には年度初めや利用開始時に職員間で確認します。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	87%	13%	0%	事例集を作成し、4月上旬に会議で話し合いを行った。毎日のヒヤリハットを職員間で終礼で共有している。月毎にインシデントアクシデントを集計し職員間で周知している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	0%	0%	毎年、年2回は法人全体の集合研修を実施している。今年度はオンラインによる研修を実施し、虐待防止研修も行った。法人内には専門職部会があり、専門職の支援の質が向上するよう事例検討を1回実施した。事業所では1月に虐待防止研修を実施した。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	100%	0%	0%	対象児はいないが、どういった場合が身体拘束にあたいするのか虐待防止研修で話し合った。	